



高槻ロータリークラブ  
2016~2017  
WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

- I. 真実かどうか
- II. みんなに公平か
- III. 好意と友情を深めるか
- IV. みんなの為になるかどうか

事務所 オーロラモール高槻西武6階 〒569-1116 高槻市白梅町4-1  
TEL 072-683-1158 FAX 072-683-1174  
E-mail [takatsuki.rc@bird.oce.ne.jp](mailto:takatsuki.rc@bird.oce.ne.jp)

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30  
例会場 オーロラモール高槻西武6階 多目的ホール TEL 072-684-5379

創立 1954年6月15日

会長 藤井敏雄 幹事 入谷治夫 クラブ運営委員長 小阪大輔 会報担当副委員長 山室匡史

No.26 2017年2月1日 発行

2月は平和と紛争予防 / 紛争解決月間

第3059回 本日(2/1)の例会

例会場変更 桃谷樓

- ◎国歌...君が代
- ◎ソング...奉仕の理想
- ◎誕生、結婚、入会記念月御祝
- ◎創業記念月御祝
- ◎1月度皆出席表彰
- ◎卓話 井前 憲司君  
テーマ「 天皇と私と兵士たち 」
- ◎例会後の行事 2月度定例理事会

第3060回 次週(2/8)の例会

例会場変更 山水館

- ◎ソング...四つのテスト
- ◎卓話 スピーカー...岩井 祐造君  
テーマ...「  
スピーカー...大木 城司君  
テーマ...「電動歯ブラシについて」
- ◎例会後の行事 第3回被選理事会

※ 12:00 に高槻西武前より送迎バスが発車します

◎出席報告

会員数	出席者数	出席率
50名	34名	72.34%
前々回例会補正後出席率	100%	
但し、Mup 7名	欠席者 0名	
出席規定適用免除有資格者	5名	

2月度 記念月御祝

◎誕生記念

深野 裕一君

◎結婚記念

丸山 俊郎・優子御夫妻 54周年  
藤井 敏雄・恵美子御夫妻 46周年  
西田 直弘・加代子御夫妻 35周年

◎入会記念

西田 直弘君 32周年  
入谷 治夫君 8周年  
篠原 光子君 2周年

創業記念月御祝

川畑 孝彦君 誠興産有限会社  
S27.2.28 65周年  
山口 誠 君 医療法人 山口医院  
S47.2.1 45周年  
奥田 晴基君 有限会社 葵  
S57.2.15 35周年

先週(1/25)の例会から

◎ゲスト・ビジター

計 2名

三好 誠様 (高槻西 RC) 歯科医  
森本 榮三様 (高槻西 RC) 建設・造園業

## ◎会長の時間

### 「職業奉仕についてⅡ」

先週は、職業奉仕について、ロータリーの中での変遷についてお話しいたしました。そして小山さんから様々な事例、考え方が紹介されましたので、よく理解いただいたと思います。さらには、今回の規定審議会で、あまり話題となっていないが、職業奉仕について大きな修正が加えられていることとお話しいたしました。つまり、今までの職業奉仕は個人奉仕という考え方が変えられたのです。

さて、職業奉仕といえば高い倫理観、高潔性が求められるものとして理解されがちですが、もっと大切なのは社会貢献の部分だと思えます。二宮尊徳は言っています。「倫理なき経済は悪である。経済なき倫理は絵に描いた餅である。」また、三井家の家訓は「商いは義を持ってなすべし。利は後からついてくる。」ですが、幕末の戦いで、江戸の店は徳川に京都の本店は勤皇に献金しています。つまり、二股をかけていました。現実をしたたかに見ることの大切さを両者は教えてくれています。

では、職業を通じて社会貢献するとはどのようなことを言うのでしょうか。明治以降、日本の産業人は国づくりのためという意識を強く持っていました。政府の富国強兵という方針があったからでしょう。このDNAは戦後の経営者にも受け継がれています。枚方にある松下の研修センターには、「産業報国」という社是が掲げられていました。戦後の商社は「加工貿易」という経済の仕組みをつくりあげました。

翻って我々高槻ロータリークラブのメンバーは、どのように取り組めば良いのでしょうか。国づくりを考えて、毎日の仕事をしているわけではありません。しかし、社会貢献というのであれば、身近にある地域社会の発展に取り組むことではないでしょうか。それは、商工会議所の仕事であるかもしれません。しかし、我々のクラブにはお医者さんや弁護士さんはじめ、幅広い職業の人がいます。また違った取り組みが出来るでしょう。職業奉仕も、時代とともに社会貢献の仕方が変わります。暗黒のシカゴ時代、高度成長の時代、そして今の低成長の時代、勿論、ベースには倫理観でしょうが、その先にある社会への貢献の仕方については、おのずと違ってくると思えます。

職業奉仕は個人奉仕であるという縛りは解けました。皆さん、皆で取り組める、高槻ロータリークラブにふさわしい職業奉仕を考えて活動してみましょう。そうすれば、魅力あるクラブとして世間にも認知され会員も増えてくると思えます。

## ◎IM第2組ロータリーデー開催PR

ホストの高槻西ロータリークラブ森本様、三好様より  
2017年1月25日(土)開催のIM第2組ロータリーデーの開催PRがありました。

## ◎幹事報告

本日、例会を当日欠席された方が5~6名おられます。食事のキャンセル等も利きませんので、皆さん、例会をお休みされる場合には、当日欠席にならないよう、事前にご連絡をいただきますようお願いいたします。

## ◎委員会報告

○職業奉仕委員会 西田 直弘  
職業奉仕委員会による「和食の会」を開催します。日本酒を賞味いただきながら、お料理を堪能いただきたいと思えますので、どうぞ皆様のご参加をよろしくお願いたします。

日 時：2017年2月15日(水) 18:30~

場 所：山水館

会 費：¥12,000-

○クラブ研修委員会 清水 利男  
前回の第2回情報集会上において皆様方の職業奉仕観を協議いただき、意見を纏めた資料を本日皆様のポケットに配布しております。個々それぞれにお考えになる職業奉仕観があつてしかるべきです。当日のご協力いただきましたこと御礼申し上げます。

また、第3回情報集会 兼 新入会員歓迎会を開催いたします。回覧を回しますので、是非ご出席下さいますようお願い致します。

日 時：2017年2月22日(水) 18:30~

場 所：からさき

会 費：未定

○社会奉仕委員会 石田 佳弘  
1月22日(日)高槻シティハーフマラソンのポイントスタッフに寒い中ご協力いただきましてありがとうございます。おかげ様で大きなトラブルもなく終わって安堵しております。今回初めての白バイ先導がカッコ良かったなあと感じました。

## ◎卓話 私の履歴書

光本智輝

このたびは歴史と伝統ある高槻ロータリークラブに入会させていただきありがとうございます。また、私の履歴書ということで貴重な時間をいただきありがとうございます。大勢の前で話をするのはあまり慣れていませんのでお聞き苦しい点が多々あると思えますがよろしくお願いたします。

### ○出身

私は1988年昭和63年の9月12日に光本家の次男として生まれました。1988年といえばバブル景気の真っただ中であり、昭和63年といえば年号が平成に変わる最後の年であります。私が生まれた学年では、昭和63年生まれ、昭和64年生まれ、そして早生まれの者は平成元年生まれがおり、まさに時代の移り変わりという時代に誕生しました。

残念ながらその後バブルは崩壊してしまい、リーマンショックを経て現在の不景気につながっていくのですが、私の生まれた世代はそういう背景もあり、ゆとり世代が転じて堅実で高望みをしないさとり世代と呼ばれることもあります。

私は生まれてから去年の4月までずっと東大阪市に住んでおりました。東大阪という町は中小企業の工場が多く道を歩けば工場にぶつかります。大学時代に友人に車で家まで送ってもらった時、家までの道案内をする際に「その工場を右、突き当りの工場を左折して右手に工場が見えたら右折」と案内し、友人に「お前の家の近く工場だらけやな」とばかにされた事をよく覚えています。しかし東大阪の工場のすごいところは、ギャグのような話なのですが中小企業の工場で部品を作って人工衛星を作ろうと決起し実際に作って飛ばしてしまった事です。皆様の中でご存知な方もおられるとおもいますが、2002年12月、厳しい不況の中、「苦しい時こそ夢を持たなアカン！」と職人集団が立ち上がり、「中小企業の技術力を結集して人工衛星を打ち上げよう」と東大阪宇宙開発協同組合(Astro Technology SOHLA)を設立しました。そして2009年1月23日JAXAのH-IIAロケットの相乗りで種子島宇宙センターから人工衛星「まいど1号」が打ち上げられ、同年10月まで続いた計画したすべてのミッションが成功に終わり、国民2人のうち1人が「人工衛星まいど1号」の名を知るほどになりました。そんなチャレンジ精神とハングリー精神が根付いた土地柄で27年間暮らしてまいりました。

あとひとつ、東大阪市には有名なものがあり、それが花園ラグビー場です。私は花園に住んでおり、ラグビー場は目と鼻の先でした。花園ラグビー場は毎年正月に行われる全国高等学校ラグビーフットボール選手権の会場に使用されており、野球という甲子園、サッカーという国立競技場と同じ位置づけであり全国の高校生ラグーマンの聖地であります。その影響もあって、私は小学校入学から大学卒業まで16年間ラグビーをしていました。

#### ○中学時代

両親に丈夫な体に産んでもらった私は中学校の時、オール大阪という大阪府選抜チームの1軍に選ばれました。ここでは現在ラグビー日本代表である木津武士をはじめ様々な出会いがあり同じチームでさまざまな方とプレーできた事がとてもいい思い出に残っています。その後高校への進路を決める際、スポーツ推薦の枠があり、いろいろな私立の高校から声をかけられましたが、私自身、スポーツだけしかできない人間になるのが嫌だったこと、早く自立して社会に働きに出たかったことを当時考えていましたので、スポーツ推薦をすべて蹴って、公立の工業高校である大阪市立都島工業高等学校への入学を決意いたしました。都島工業という学校は大阪の工業高校の中ではダントツに高い偏差値であったため、受験シーズンになるとラグビーをしながらの勉強がとてもつらかったのを思い出します。私は頭が良い方ではなくスポーツ推薦で私立の高校に進学すると信じていた担任の先生にも無理じゃないか、もう少しレベルを下げてもいいんじゃないか、と言われました。というのも当時担任であった先生は私が大の不得意とする英語の科目を担当しており、私は英語のテストでは赤点を量産していたからです。都島工業入学の目標を立てるまでは勉強なんか2の次であった私はその時自分の行いにとっても後悔しました。しかし、その先生はいつも私のラグビーでの頑張りを見てくれており進路指導の際に頑なに公立を志望する私を見て何か感じ取ってくれたのか、ある日、中学1年生からの英語のドリルを私のために用意して持ってきてくれました。そして、「光本、一緒に1から勉強しよう」と声をかけてくれたのです。それ以来、ラグビーの練習が終わってからも勉強に付き合ってもらい先生の気持ちに答えようと必死で勉強しました。その結果、無事、平成16年4月、大阪市立都島工業高等学校 都市工学科に入学することができました。

#### ○高校時代

都市工学科という学科は、昔でいう土木科にあたります。普通の工業高校であれば8割が就職2割が大学へ進学という割合なのですが、都島工業は5割は大学へ進学する、という非常に勉強しやすい環境でありました。工業実習ではコンクリートを自分たちで練って強度を調べたり、測量を行って高低差を測ったり、実際に橋を作ってどこに負荷がかかりやすいか、等を調べたりしました。その他にも水利計算やCADソフトを使った実習、製図や設計等、普通科では勉強できないいろいろなことを勉強させてもらいました。私はその中でも測量が得意で、実習や座学を深く勉強し、高校2年生の時に測量士補という国家資格に合格しました。小さいものではパソコン検定や情報技術検定、土木施工技術士など様々な資格を取らせてもらい、漢検や英検などと違った現場で役立つ資格の所得にとってもやりがいを感じていました。

中学校から高校に上がった時に入学当初は、ラグビーの方も続けるつもりはなく、せっかく初めて勉強して入学してきた高校だったので、クラブ活動は入らずに勉強に専念しようと考えていました。また、ラグビーはとてもケガの危険性が高いスポーツです。野球やサッカーとちがって人と人とがぶつかり合って接触するスポーツだからです。ケガをしていてもテーピングでグルグル巻きにしてグラウンドに出ていくスポーツはなかなか少ないのではないのでしょうか。1年に1回はラグビーで死人が出たという話を聞きますし、実際に私の1つ下の後輩も練習中に首の骨

を折ってしまい首から下が動かなくなりました。その点で母親も特に心配しており中学校の引退試合が終わった後ほっとした顔をしていたのを覚えています。しかし小学校から続けていたラグビーをいきなりやめしまうとなにか物足りないと感じるようになりました。体を動かさずに1日過ごす、夜寝るときにどうしようもなく体がうずいてきてしまい、よく走りに行っていました。入学してから少し経つと私がオール大阪に選出されていた事を聞きつけ、ラグビー部の顧問の先生に呼び出されました。私は勉強に専念したい旨を伝え、入部を断ろうとしましたが、顧問の先生は私に「都島工業のラグビーは文武両道だ。君の先輩たちはラグビーも頑張っているが勉強も頑張っている。どちらかに偏ってはいけません。何でもできる男になれ」とおっしゃいました。その言葉を聞いて心が熱くなってしまい、結局ラグビーを続ける事となりました。ちなみにこれは後の話ですが、実際に私の1つ上の先輩は京大工学部に進学しましたし、同級生も勉強して地方の国公立にたくさん進学していきました。母親にラグビーを続ける事を伝えるとすこし心配そうに「勝手にすれば」という返事がかえってきました。

それからしばらくラグビーと工業実習のレポートに追われる日々が続きました。公立高校なのでお金がなくラグビーをする皆を取り巻く環境はとても厳しいものでした。グラウンドも狭くもちろん人工芝など存在しないので砂のグラウンドの上ですり傷、切り傷、そして傷が化膿して広がっていくいわゆる飛び火とよばれる状態と常に戦って練習を行っていました。ただ、ひとつだけいい環境であったのは、一緒に練習する部員が誰一人として手を抜かない、お互いに励ましあい高めあい試合での勝利を目指して目を輝かせていたという点です。周りが本気で一生懸命に力を出し切り勉強にクラブ活動に精を出す環境の中で私自身も成長できたと信じていますしこの経験は宝物であると思っています。

その成果が大きく花開いたのは私が高校2年生の時の春、第6回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会の時です。大阪でベスト8以上である事、恵まれない環境、他校や地域に良い影響を与える等の理由で選出されるチャレンジ枠という枠、野球でいう21世紀枠の位置づけで全国大会に出場権をいただく機会がありました。

その大会の1回戦の相手が札幌山の手高校というチームだったのですが、これが皆様の記憶にも新しいかと思いますが、ラグビー日本代表で南アフリカに歴史的勝利をおさめた時のキャプテンであるリーチマイケル氏率いるチームでした。初めてリーチマイケル選手を見た時の印象はとにかく体が大きいというものでした。私の身長は173センチあるのですが、その身長を一回りも二回りも超える印象でした。たしか、当時の選手プロフィールでは、185センチぐらいであったと思います。幸か不幸か、リーチマイケル選手は私と同じフランカーというポジションであり、スクラムを組むたびに超至近距離で向かい合いました。そのたびに周りの選手と違うオーラがプレッシャーとして私に降りかかったのを覚えています。

その試合で私たちは今までにないぐらいチームとしてまとまっていた。全国大会も初めてですし、チャレンジ枠という位置づけでの出場であったのでなんとか爪あとを残してやろう、何とか自分たちの努力を形に残したい、という一心で意識を一つにして試合に臨みました。結果は20対26。大阪の私立校の陰にかくれていた無名のチームが全国大会常連校を打ち負かしたのです。

ラグビーというスポーツは番狂わせの少ない競技と言われています。野球であれば圧倒的なピッチャーがいるチームは相手を抑えることができ、またサッカーであればディフェンスに徹しカウンター狙いで格上の相手に勝つこともあります。ラグビーでは防御と攻撃に特別効果的な方法はなく勝つためには相手と接触する接点で相

手を後退させ、相手陣内で攻め続けることが基本となります。

そのため体格の差がそのままスコアにでて強いチームの一方的な試合になることも多く、ラグビーにおいて奇跡というのは起こりづらいのです。これがラグビーワールドカップで日本代表が南アフリカ代表を制した時に「スポーツ史上最大の番狂わせ」と一躍脚光を浴びた由縁なのです。

ラグビー日本代表ほど大きな舞台ではありませんが、無名であったチームが勝利したことで、毎日新聞にも「大阪の公立校が吠えた」という見出しで記事にのりました。それよりなにより自分たちがしてきたことが間違いではなかった、自分たちのしてきたことが認められた、という喜びは何物にも代えられませんでした。その後、冬の大会、花園出場へ向けてまたチームは動き始めました。私が高校3年生の時、高校最後の年にそのチャンスはやってきました。

その年チームは順調に勝ち上がり全国大会予選の決勝まで駒を進めたのです。相手は大阪工大高、全国大会常連校であり全国大会でも上位を争う強豪チームでした。大阪府予選の決勝は花園ラグビー場で行われます。大阪は高校ラグビーの激戦区であり3ブロックに分かれて予選大会が行われます。そして、予選大会の決勝戦は毎日放送の地上波でのテレビ放送があり、カメラもたくさん来ていました。その場所に入場した時の感動を今でも覚えています。青々とした芝生、映画のように澄んだ空、そして都島工業の野球部、サッカー部、バスケット部など、体育会系クラブと保護者たちが選手に内緒で密かに作った特別応援団。正直私はその光景を見られただけでとても幸せを感じてしまいました。実力差は草野球とプロ野球ほどの差がありましたが、一矢報いてやろう、そんな気持ちで体中を駆け巡りました。

結果は26対13。あと一歩及ばず私の高校ラグビー生活は幕を閉じました。しかし私はこの試合ほど名誉を感じたことはありません。1人の相手に対しチームメイトと3人がかりでタックルに行き弾き飛ばされてもすぐにリスタートをかけまた3人でタックルに行く。後に大学で大阪工大高の副キャプテンと一緒にチームになるのですが、彼はその時の都島工業がとても脅威であったといえます。実際大阪工大高は花園で全国大会ベスト8に入ったのですがその当時のキャプテンも取材で一番心に残った試合、として都島工業の名前を挙げてくれました。その後試合を見に来てくれた方や、テレビ放送を見てくれた方からたくさんお褒めの言葉をいただきました。その中には中学校の時の担任の先生もおり、「結局ラグビー続けてるやん」「勉強させて都島工業入らせてよかった」という言葉を頂きました。余談ですが当時27人だった部員の数が、来年には100人を超える人数になっていました。私は大学に進学するつもりはなかったのですが、その時の感動を忘れられず、そしてもっと新たな経験をしてみたいと強く思い、スポーツ推薦枠をいただき平成19年4月、桃山学院大学経営学部に進学しました。

#### ○大学時代

桃山学院大学では打って変わって自分たちで作る楽しいラグビーを経験しました。チームは3部リーグの弱小チームでしたが、そこでも色々な経験をする事ができました。まず、チームには顧問も監督も顔を出しませんでした。そのため、練習メニューを組む、合宿の日程を組む、練習試合の相手を組むなどクラブとして機能するように一通りは自分たちの手で進めていきました。試合前のテーピングなどもマネージャーや選手同士で行うこともあり、全員が選手であり、主務であり、トレーナーでした。部費が足りなくなり部員全員で年末シーズンオフの時に泊まり込みでサカイ引越センターのアルバイトに精を出したこともありました。その他にも酒を飲める

ようになってから下宿している先輩の家に集まりラグビーを語りながら酒を飲み明かしたり、部員全員がラグビーのことを好きでした。強豪校ではありませんでしたが、私は大学の時が一番ラグビーを愛していたかもしれません。大学でも他では味わえないなんとも幸せな時間を過ごしました。

ここまで長い間、ずっとラグビーについて話してきましたが、それぐらい私にとってはラグビーというものが大切なものでした。単純に体を動かすのが好き、というわけではなく、ラグビーというスポーツを軸に学んだいろんな経験や生き方、私の青春時代の人格形成の根本にラグビーというスポーツがあるのだと思います。私の人生でラグビー以外の事にも全力を出して取り組めてきたのもラグビーのおかげであると思います。私は今まで、右手薬指脱臼靭帯損傷、左膝内側靭帯損傷、右膝脱臼、右膝半月板損傷、右膝内側靭帯断裂、右膝前十字靭帯断裂、右膝後十字靭帯断裂、その他切り傷、擦り傷と多くのケガをしてきました。しかしそのケガ一つ一つがいろいろな逆境に立ち向かい私が成長してきた証ではないかと思っています。

#### ○就職

大学卒業後、平成23年4月私はJA大阪中河内に就職しました。JA大阪中河内は東大阪、八尾、柏原、松原市のJAが合併し大阪府下で一番大きな規模のJAでした。私の仕事は金融事業の複合渉外でして、営業回りをしてJA共済やJAバンクの商品を販売する、簡単に言えば保険を売りながら預金を集め、融資案件を獲得してくる、というとてもたいへんな仕事でした。

しかし、お金というものは自分自身の生活の中でも特に重要であり人生においてお金の流れを勉強していきたいと感じていた私にはピッタリの仕事でした。営業成績でも大阪府下のJAの優績表彰を受賞したり、JA大阪中河内管内の新人努力賞獲得や支店順位1位に貢献するなど結果を残していきました。プライベートでも今の家内と婚約し充実した生活を過ごしていました。

#### ○転職—後継者を目指して—

転職があったのがJAに就職して5年目の平成27年8月の下旬、私が家内にプロポーズしてすぐの事です。いきなり父親、当社の社長である光本章から電話がありました。父親の電話ははじめ、なかなか要領を得ず、私も何が要件なのかわからなく戸惑っていたのですが、最後に「率直に言うと会社を継いでほしいんや」と言われました。突然の事に返事ができず「考えといてくれ」とだけ言われてその時の電話は終わりました。その後、父親と当社の常務である赤鹿年秀に呼び出されて初めて私に声がかかった経緯を知らされました。

簡単に説明いたしますと現在、当社は安威川ダム建設工事や新名神高速道路工事に砕石を納入しています。そのため2~3年間は売上が安定する見込みです。しかしその工事が終わった後大きな公共工事は予定されておらず売上が先細りしていく事が予想されます。大規模な設備投資をするには今しかチャンスがなく、今のうちに会社の力を蓄え増強させることが課題になっています。その状況の中での大きな投資が私を迎え入れることであったのです。幾度となく従業員と会わされる機会があり、そのたびに皆から会社に来てくれ、来てくれないと困るという言葉頂きました。正直私は迷いました。会社の状況は理解できたのですが、私には仲間とともに切磋琢磨して上を目指せるやりがいのある職場もありましたし、安定した生活もありました。なによりプロポーズしたばかりのこれから家族になる女性もいたので私は何か月も答えが出ずとても苦しみました。

その時入社を決め手となったのが母親と家内の言葉です。母親に相談すると、「困っている人がいるなら行く事を考えてもいいんじゃないか」「好きにしたらいいよ」「い

つも自分で勝手に決めてくるんやから」と言いました。そのときの顔は私が高校の時ラグビーを続ける事を勝手に決めてきたときの顔とそっくりで、心配だけれども私の選択を信じていてくれている、そんな顔でした。

家内に相談すると「いつもあなたの選択は安心できる。選択が間違いであっても正解に変えられる気がする」「私はどんなつらい生活でもかまわない。あなたはしぶといからあなたと一緒に私も泥水をすすってでも生きていけると思う」と言いました。

その言葉を聞いた後、私は迷いなく高槻砕石株式会社の後継者を目指すことを決意しました。そして平成 28 年 4 月(去年の 4 月)、高槻砕石株式会社へ入社しました。砕石という仕事がどのようなものか、皆さんご存知でしょうか?私は去年の 4 月まで砕石というものが何たるものか、なにも知りませんでした。簡単に説明すると山の石に爆薬で発破をかけ、とれた大きな原石をプラントと呼ばれる大きな工場に放り込み、規格に合った大きさにふるい分けし製品として生コン工場や道路のアスファルト工場に出荷するという単純なものです。しかし聞くと見るとでは大違いで大変なものです。石は自然の物なので毎日違うものがプラントに投入されます。そのため品質を安定させることが難しく 2 つの採取場所から分けて原石を投入したり、プラントでは石を砕く機械の刃の幅や加水の調整など細かく石の状態を見張る必要があります。さらにラインの調整により特定の大きさの石の生産量のある程度増やすことはできますが 1 種類の石だけを製造する事はできず、必ず他の大きさの石と一緒にできるため、ストックヤードが必要になります。置き場を原石の近くに置くと次の発破ができなくなりますから、工場では、いつも製品の置き場、原石をとる場所に頭を悩ませています。まるで超難解なパズルを解いているようです。その他にも私が考えもしなかった問題点が多々あり、日々勉強しながら職務に励んでいます。

今現在の私の生活は、月曜日から土曜日まで朝 5 時に起床し、当社茨木工場に出社。7 時の朝礼が終わった後、ユンボやダンプなどの大型重機に乗ったり、発破作業やプラントの修理などの手伝い、砕石の出荷室で伝票作成をする等たくさんの仕事に関わらせていただいています。なかなか全ての仕事が一筋縄ではいかず苦労の日々ですが、私を温かく迎え入れてくれた従業員の方々の力を借り一つ一つ理解していく事に今は充実感を感じています。もし発破が見たい、大型重機が見たいと興味がある方はぜひ当社茨木工場にお越しください。もしお越しになる際は工場全体に砂埃が舞いますので汚れてもいい動きやすい服装をお勧めします。過酷な現場ですが街中では見られない景色が広がっています。

工場業務以外では砕石協会の役員会や商工会議所の会議等があるときは社長の代わりに出席させていただき勉強の毎日です。いろいろな場所に顔を出させていただいているので皆様とは高槻ロータリークラブ以外でもお顔合わせする機会があるかと思えます。またその際には気軽に声をかけていただけますよう、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、私の簡単なプロフィールを添えさせていただきます。

高槻砕石株式会社 取締役 専務 光本 智輝  
好きな言葉 : One for all, All for one

~1 人はみんなのために、みんなは 1 人のために~  
趣味 : 小型バイクでのツーリング  
ゴルフ (はじめたて、初心者です)

その他 : まだまだ世間知らずな未熟者ですが、皆様の応援やご指導ご鞭撻、心よりお願い申し上げます。

以上、ご清聴ありがとうございました。

## ◎例会後の行事

### 第 2 回被選理事会

## ◎ニコニコ箱報告

- ・誕生記念内祝 山室君
- ・結婚記念内祝 本多君
- ・入会記念内祝 本多君
- ・マラソン大会、未来塾のダンス発表会に多数ご参加いただき寒いところありがとうございました。藤井君
- ・三好先生、森本様、ありがとうございました。藤田君
- ・ハーフマラソンのボランティアでは 21 名もの参加をいただき有難うございました。また、連絡が一部不十分でご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。井前君
- ・寒い中、マラソン大会運営にご協力頂きありがとうございました。石田君
- ・高槻ハーフマラソンエリアスタッフ不参加すみません。岩井君
- ・卓話を聞いて頂きありがとうございました。光本君

---

本日の合計	¥ 45,000-
7/1 よりの累計	¥1,450,000-

## ◎R 財団への寄付

生駒 俊雄君	¥10,000-	君 井前 憲司	¥5,000-
石田 佳弘君	¥5,000-	君	

---

本日の合計	¥ 20,000-
7/1 よりの累計	¥ 545,000-
一人当たり平均	\$ 95.88

## ◎米山奨学会への寄付

石田 佳弘君	¥5,000-	生駒 俊雄君	¥10,000-
--------	---------	--------	----------

---

本日の合計	¥15,000 -
7/1 よりの累計	¥447,500 -
〔 会員より	¥200,000- 〕
〔 クラブより	¥247,500- 〕
一人当たり平均	¥9,133-